

令和7年度（川崎北高等学校）不祥事ゼロプログラムの検証等

○ 課題・目標別実施結果

課 題	目 標	実施結果と目標の達成状況
○生徒の個人情報の取り扱い	職員一人ひとりが、個人情報についての理解を深め、校内における個人情報等の管理体制を確立し、情報の紛失及び流出を未然防止する。	生徒の個人情報について、学校内での取り扱いに関するルールを明確化し、教職員全員に周知した。個人情報を含む書類やデータは施錠可能な収納場所に格納し、情報漏洩を防ぐための具体的な措置を講じた。これらの取組により、個人情報の流出等の事故を未然に防ぐことができた。
○生徒に対するわいせつ・セクハラ行為の防止	教育公務員として、全員がわいせつ、セクハラ行為の未然防止について当事者意識を持ち、安全で安心な環境をつくる。	教育委育会からの通知や啓発・点検資料等を活用し、事例を基に注意喚起を行い、自分の価値観や意見を一方的に押し付けることがないよう、また、同僚に対する思いやりを持った言動をすることを確認した。
○定期試験・成績処理の事故防止	公正な試験を実施し、適切な成績処理を行う。	教務開発グループ作成の成績処理マニュアルに従い、成績処理、帳票作成を行った。また、定期試験実施の際は、毎回、教務開発グループの総括教諭や管理職による注意喚起を行った。複数人によるチェックを実施し、試験中のトラブルや疑問に対応するための監督体制の強化に努めた。
○体罰、不適切指導の防止	職員が人権感覚を高め、生徒の人権を尊重し、心身の発達や安全に留意した適切な指導を行う。	生徒の人権を尊重し、心身の発達や安全に配慮した適切な指導を行うことに努め、概ね達成できたが、十分な配慮が行われなかったケースが一部認められた。 特に非常勤講師等への徹底についての方策も必要である。
○服務規律の徹底、法令遵守意識の向上	勤務時間の内外を問わず公務員として信頼される行動をとる。職務を公正に遂行する。	教育委員会からの通知や啓発・点検資料等の活用、朝の打ち合わせや職員会議等での注意喚起により、服務遂行の周知徹底を図った。また、管理職との個別面談を通し、不祥事防止の徹底を図った。今後一層の意識向上へとつなげていく必要がある。
○個人情報の適切な取り扱い、情報セキュリティ対策	個人情報について理解を深め、個人情報の保護と安全な運用を目指す。	教育委員会からの通知や啓発・点検資料等を活用し、教務手帳や個人情報の管理及び誤廃棄防止の徹底に努めた。全職員に対し情報セキュリティ対策に関する意識の向上を図った。
○会計事務・物品管理等の適正執行、適切な経理処理	適正な会計処理・物品管理、廃棄を実行し、私費会計等に関する事故を未然に防止する。	今年度の財務事務調査指導結果を共有して、改善策を確認した。各会計担当者を中心に、経理処理の適正執行に努めた。インターネットバンキングの導入により、会計処理の手続きの効率が図れた。

○交通事故防止、交通法規の遵守	酒酔い、酒気帯び運転禁止の徹底、交通法規の遵守により交通事故防止を目指す。	教育委員会からの通知や啓発・点検資料等を全職員で活用し、交通事故発生の未然防止及び酒酔い、酒気帯び運転の根絶、交通法規遵守の意識の向上を図った。
○入学者選抜、成績処理及び進路関係書類等に関わる事故防止	点検体制を整え、職員が一つひとつの業務を確実に実行し、適切な処理を行う。個別教育計画、進路、実習関係書類作成の管理と処理を適切に行う。	県のマニュアルに則り、入選要項を作成し、間違いのない業務の徹底に努めた。成績処理関係書類の作成及び取扱いについては、研修や日々の注意喚起を通して点検や確認の徹底を図った。進路関係書類の作成では、複数チェック体制で適切な処理を心掛けたが、一部で対応が十分ではなかったケースが一部認められた。
○職場のハラスメントの防止（セクハラ、マタハラ等）	職員一人ひとりがお互いの人格を尊重し、協力して業務にあたる。	職員間の人権尊重や協力体制の改善に一定の成果が見られた。人権尊重の意識を高め、全職員でインクルーシブな学校づくりに向けての共通理解を推進できた。
○コンプライアンスの意識の醸成	コンプライアンスの意識を持ち、公務員として公正に職務を遂行する。	管理職との面談や日常の会話を通して、一人ひとりが教職員としての使命とともに、社会の一員であることを自覚し、法令等を遵守して、信用失墜行為等を防止する意識が高まっていることが確認できた。
○風通しの良い職場づくり	一定の規律・節度を保ちつつお互いを尊重しながら議論を行い、業務の生産性を向上していけるような職場づくりを目指す。	職員が気軽に相談できる体制を整備することで問題が早期に報告・対処される仕組みが強化された。 一人ひとりが円滑なコミュニケーションを図り、働きやすく、働きがいのある職場づくりを推進することが業務の生産性を高める要因だと確認した。

○ 令和7年度における不祥事ゼロプログラム全体の達成状況と今後の課題（学校長意見）

本校では、不祥事防止研修会を職員会議の後に毎回開催している。職員の不祥事防止を啓発しつつ、信頼性の高い学校運営を目指す「不祥事ゼロプログラム」が達成されるように努め、全職員が「不祥事ゼロ」の重要性を自覚し、日常的にリスクを回避する行動が取れるようコンプライアンス教育を行っている。また、不祥事防止への取組を全職員が自分事として受け止めることができるよう、テーマに沿い、管理職、総括教諭等が担当者となることで、結果として目標は概ね達成できたと考えている。

現在、不祥事ゼロを維持しているものの、予防策が全職員に十分浸透しているとは断言できない。社会環境や時代の変化に応じて、潜在的なリスクが増加する可能性がある。そのため、予防策の具体性を高め、職員の日常的な行動への浸透を促進する研修を実施していく必要がある。

不祥事の未然防止、早期発見、再発防止のためには、実効性のある対策や対応が求められる。全職員が円滑なコミュニケーションを図り、風通しのよい職場づくりを心掛け、全職員が、教育公務員としての使命と倫理観を自覚し、不祥事に対する当事者意識を持ちながら、「絶対に不祥事を起こさない」という強い意志を持って行動し、不祥事を未然に防止する職場づくりを今後も推進していく。